# 建設業 しんこう

No. 514
建設産業の
今を伝え未来を考える
12・1
Dec.2019 / Jan.2020

特　集

## 専門学校と大学の就職事情

一般財団法人
建設業振興基金

建設産業の今を伝え未来を考える

# 建設業しんこう

Dec.2019 / Jan.2020
12·1

No.514

CONTENTS

編集・発行：一般財団法人 建設業振興基金
〒105-0001　東京都港区虎ノ門4-2-12虎ノ門4丁目MTビル2号館
TEL：03-5473-4584　　FAX：03-5473-1594
URL：http://www.kensetsu-kikin.or.jp/

巻頭 年頭所感 …… 01

特集 採用シーズン到来前に知っておきたい! …… 02

## 専門学校生&大学生の就職活動最前線

- 学生たちのイマドキの就職活動の実態を聞く!
- 情報収集の10ルート
- “いい企業”の見極めポイント

FOCUS

工業高校紹介
徳島県立つるぎ高等学校 …… 08
- インタビュー：平田 元美 先生

PRESCRIPTION

日本経済の動向 …… 10
- 世界的な自動車販売の不振をどう見るか

建設経済の動向 …… 11
- 好業績背景に投資と新領域開拓

連載 働き方改革関連法案に対応!! 建設業の労務管理 … 12
- 【第2回】建設業における労働時間の考え方

連載 かわいい土木【第27回】…… 14
- 東京都専用線旧晴海鉄道橋／東京都江東区、中央区

しんこうTODAY …… 16

いつでもチェック!!

建設業しんこうWeb
建設産業の今を伝え未来を考える

『建設業しんこう』はWebでもご覧いただけます。

しんこうWeb 検索
https://www.shinko-web.jp/

メルマガ登録はコチラから!

「建設業しんこう」に関するご意見・ご要望
TEL：03-5473-4584（企画広報部）
MAIL：kikaku@kensetsu-kikin.or.jp

印 刷：日経印刷株式会社
◎本誌記事の無断転載を固く禁じます。

【建設業しんこう編集委員】
東洋大学理工学部建築学科教授　浦江真人
国土交通省建設市場整備企画官　堀口岳史
(一財)建設業振興基金専務理事　黒田憲司
国土交通省建設業政策企画官　平林剛
日経コンストラクション編集長　浅野祐一

# 年頭所感

一般財団法人 建設業振興基金 理事長
佐々木 基

明けましておめでとうございます。

令和としてはじめての新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、台風15号、19号等の強い台風が頻繁に日本列島を縦断し、暴風・大雨により多くの河川の氾濫や住宅の損傷等、日本各地に甚大な被害がもたらされました。被災されたすべての皆様に対しましてお見舞い申し上げますとともに、一刻も早く平穏な日々を取り戻されますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、これらの災害の復旧・復興、さらには防災・減災、国土強靱化等への対応と地域の守り手である建設産業が担う役割は益々広範囲かつ重要なものとなっております。一方、今後さらに生産年齢人口が減少していく時代において、引き続き、建設産業が国民からの付託に応え続けていくためには、次世代に繋ぐための改革が喫緊の課題となっております。このような中で、国は昨年6月「品確法」、「建設業法」、「入契法」を新・担い手3法として一体的に改正しました。長時間労働の是正、週休二日制度の導入等、働き方改革への対応と生産性向上、賃金の引き上げ等を産官が一体となって実現し、魅力ある産業に転換させていこうとする決意が改めて示されたところであります。

本財団におきましては、昨年４月より建設キャリアアップシステムを本格稼働しました。建設技能労働者の保有資格・就労履歴等の情報を蓄積、見える化していくことにより、技能と経験に見合った処遇が受けられる一連の仕組みを業界全体で構築しようとするものであります。他産業に先駆けたこの仕組みが業界標準となる日まで邁進して参りますので、改めてご協力をお願いいたします。

今年度が最終年度となります建設産業担い手確保・育成コンソーシアム事業につきましては、これまでの成果等を踏まえ、地域において築かれた職業訓練の実施体制や今後の活動についても関係機関等との連携により支援して参ります。また、建設労働者緊急育成支援事業につきましても、国の次の施策に対応していけるよう業界団体、職業訓練機関等との協力関係を一層強化し、これに備えて参ります。

また、「一級施工管理技士補」や「監理技術者補佐」の制度化、「登録建設業経理士」制度をはじめとした継続学習の充実等、国のこれからの取り組みへの対応や建設産業の新たなニーズにも柔軟に対応していくため、今年度中に本財団の当面の重点施策を「中期経営方針（2020年～2022年）」としてとりまとめることとしております。これからも組織を挙げた連携のもと各種事業の実施に当たるとともに、産業と行政とを繋ぐ架け橋として建設産業の持続的な発展に貢献していく所存でございますので、皆様方のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりますが、皆様方のご健勝とご多幸を祈念して、年頭のご挨拶とさせていただきます。

特集

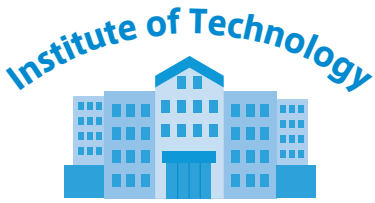
# 採用シーズン到来前に知っておき 専門学校生＆大学生の就

イマドキの学生はどんな就職活動をしているのか？専門学校と４年制大学では就職活動に違いはあるのか？
知っていそうで知らない、就職活動の“今”について、日本工学院八王子専門学校 山野大星副校長と、
広島工業大学 栗﨑真一郎教授に伺いました。

## ✔ 学生と企業との“重要接点”に違いがあった！

### 専門学校生【合同説明会】

専門学校生にとって、夏休みや春休みを利用して参加するインターンシップの機会はごく限られています。そのため、卒業期の４月に開催される合同企業説明会までに、企業に接している学生はあまり多くはありません。合同企業説明会が初めての接点となるケースが多いようです。




### ４年制大学生【インターンシップ】

大学生にとってのインターンシップは、授業カリキュラムの一環として単位認定される４週間以上のものと、単位は認定されない短期間のものと２種類。学生は業界・職種を知ることや、志望企業へのPRを目的とした１～５日間程度のインターンシップにより多く参加する傾向にあります。

## ✔ 高校生に似た動き!?

内定

### 内定社数は !?

平均 1 社

専門学校生の就職活動にとって、学校で開催される合同企業説明会は、いわば「お見合い」のようなものなので、１社ずつ選考を進めていきます。「１人１社制」の高校の就職活動と似ています。就職サイトなどを活用し、複数受験する学生は少ないかもしれません。

## ✔ 1DAYも含めると9割が参加

### インターンシップ参加数

平均 2 社

広島工業大学　栗﨑先生によると、同校学科の学生のおよそ9割が、インターンシップに参加しています（3年生ヒアリング／2019年10月時点）。そのうち７割は、２社以上の企業に行っており、ボリュームゾーンは２～３社。面接や受験するうえでのスタンス、心構えを教えてもらうと学生は満足度が上がるそうです。

たい！

# 職活動最前線

お話を伺ったのは

日本工学院八王子専門学校
副校長
山野大星 先生

広島工業大学
工学部 建築工学科 教授
栗崎真一郎 先生

## 就活スケジュールを確認してアプローチタイミングを探る!

### ＜専門学校＞

日本工学院八王子専門学校の場合

**1年**
- キャリアガイダンス（10月開始）
- 業界・企業研究（11月～）
- 業界人による就職支援セミナー（1月）
- 進路希望調査（2月）
- U・I・Jターン説明・相談会（2月）
- 求人資料閲覧開始（3月）
- 学内個別企業説明会開始（3月）
- インターンシップ（春休み ※希望者のみ）
- 春季合同企業説明会（4月）

**2年**
- 地元企業合同企業説明会（6月）
- インターンシップ（夏休み ※希望者のみ）

#### POINT

日本工学院八王子専門学校では、地元での就職を希望する生徒に対して、地元企業に特化した説明会を実施するなどの就職サポートを行っています。宮城県、秋田県、青森県の3県については「UIJターン就職支援に関する協定」を締結しており、県職員が説明に来てくれます。

### ＜4年制大学＞

広島工業大学の場合

**1,2年**

**3年**
- 自己分析（6～11月）
- 業界・企業研究（6～2月）
- 筆記試験対策（6～4年生5月）
- インターンシップ（6～3月）
- OB・OG訪問（6～4年9月くらい）
- エントリー・資料請求（3年生3月～7月）
- 会社説明会・セミナー（3年生3月～9月）
- エントリーシート（3年生3月～9月）

**4年**
- 選考（6月～10月）
- 内々定（6月～10月）

#### POINT

企業の採用担当者の方で、学校との関係づくりに困っている場合は、学内で開催される合同企業説明会前のタイミングが良いかもしれません。採用実績がなくても、就職課にお問い合わせをすると、学科の就職担当教授につないでくれるそうです。

対談

# 学生たちのイマドキの就職活動の

## 学生たちの就職活動は、今どのような傾向がありますか？

**山野大星先生（以下、山野）**　志向が非常に多様化している傾向があります。以前は情報源が限られていて、たとえばみんな同じテレビ番組をみて同じようなことに興味をもっていました。しかし今は、YouTubeをはじめメディアがたくさんあります。学生が自分の好みに合ったものから収集をしているので、昔のような絶対的な価値観ができにくい。その中でも、特に専門学校で比較的共通して耳にする企業選びの基準は、「家の近くで就職したい」「転勤は避けたい」ということです。それは、保護者のご意向も強いのかもしれません。

**栗﨑真一郎先生（以下、栗﨑）**　なるほど、専門学校では地元志向が見られるのですね。私どもの大学の建築では関東・関西への就職率が高い傾向にあります。1年生の頃から授業で、「大きな建築・構造物をつくりたいなら、地元にいても機会が限られているぞ」と話している影響かと思っています。若いうちは地元を離れて大きなものづくりに携わる企業で活躍し、遠い将来、地元に戻ってくればいいと考えている生徒が多いです。

**山野**　就職エリアについての考え方は、確かに大学生と専門学校で違うかもしれませんね。専門学校の方がより、地域に根出した存在であることが影響するのでしょうね。

それから、以前から変わったと感じることは、ワークライフバランスを重要視する学生が増えたこと。「自分の生活はどうなるのだろう」と心配しているようです。

**栗﨑**　「どうしても設計をしたい！」という学生も、以前に比べると割合が減りましたよね。

**山野**　はい。入学当初は「住宅を設計するぞ」と志を抱いているのですが。学んでいるうちに自分の適性を見極めて、施工管理に志望先を変更する学生が多くなりました。それには、近年、施工管理の求人募集が増えていることが、影響している可能性もありますね。

## 就職活動において、学生と企業の重要な接点はどこですか？

**山野**　専門学校生にとって企業と初めての接点は、卒業期の4月に校内の体育館で実施する「**合同企業説明会**[1]」。これは、とても大切なポイントだと考えています。ここで就職を決めていく学生ももちろんいますが、4月の合同説明会で企業の方と直接会話を体験して初めて就職活動のモードに切り替わっていきます。合同説明会は企業と学生の“お見合い”の場だと思っているので、基本的には1社ずつ受験しています。工業高校生と同じですね。4年制大学の場合だと、エントリーシートを出して、同時に複数受験するスタイルで就職活動を行うのですよね？

**栗﨑**　2、3社は動いていますが、文系学部より少ないですね。今、**就職戦線は過渡期に**[2]あります。もっとも変わったのは、3月頃に東京の大きな会場に多数の企業が一斉に集まる合同説明が少なくなったこと。5、6年前までは広島から学生を100人ほど連れていっていたのですが、今は学校としては引率していません。それに代わるものとして、「**インターンシップ**[3]」が非常に大切な接点となりました。業界全体でまとまってではなく、個別での動きにシフトしてきた印象です。

**山野**　インターンシップについては、2年制の専門学校では今課題となっています。時間が限られているので、行けて1年生の夏休み。しかしタイミングが早すぎるという意見もあります。そうすると、2年生に上がる直前に数日いけるくらい。そこで企業の方に当校に来ていただき実施する疑似インターンシップです。キャンパス内で鉄筋や型枠などを組む体験型学習などはいいのかなと思っています。

**栗﨑**　なるほど。仕事を体験するという意味ではいいですね。企業で行うインターンシップに参加するときには、昼休みを大切にするようにいっています。「ぶっちゃけどうですか？」と聞けと。そうすると、「初任給はいくらだ？」「余暇時間は十分にとれるか？」といった価値観で企業探しをしていた学生が、「会社の雰囲気」「仕事の細かな内容」が大切なのだと意識をシフトして帰ってきます。

地元志向？都会志向？

# 実態を聞く！

企業のどんなことに興味ある？

**山野**　それはいいですね。求人票に載っていない、そういった情報はとても大事。私たちも学生に企業を紹介するさい、会社が社員をどう育てるか、親睦（飲み会）はあるのかなどの情報を、企業の採用担当の方から教えていただければなと思います。

## 会社説明会やインターンシップでは、企業のどのようなポイントをよく見るよう指導しますか？

**山野**　専門学校では中小規模の企業にも訪問します。そのときは、社長をよく見るようにと指導しています。大企業とは違い、中小企業のカラーは社長の人柄によるところが多いですからね。そこは大事なチェックポイントだと思います。

**栗﨑**　そうですね。大学の場合は、基本的にはゼミが指導母体ですから、縦のつながりが非常に強い。そこで、先輩が辞めていない企業をちゃんと見るように言っています。最近では企業の方も、ゼミの先輩を直接ゼミに行かせ、説明をさせるという採用戦略をとっているようです。だいたい入社1年目の社員を送りこんでくるので、ゼミでは顔見知りも多い。かしこまらずに、会社について仕事についての本音トークをしていますね。

**山野**　OB訪問でいうと、専門学校では中堅どころに成長した卒業生から、「誰かいい人材はいませんか？」と電話がかかってくることが増えました。ときには「会社が人手不足なので、OB・OGとして説明に行ってもいいか」と相談が来て、急遽、即席の企業説明会を開催したこともありました。年齢は離れていても先輩ですからね。先輩の姿を見て興味をもった学生がおり、結局3名採用が決まりした。

**栗﨑**　OBの影響力は、確かに大きい。たとえば合同企業説明会でも、OBがブースについてくれると印象に残りやすく引きが強い。合同企業説明会の場合は、学生はどうしても大きな企業のブースに集まりがちです。我々が同行していたら、「あの企業には先輩がいるからとりあえず話を聞いてくるように」と、中小企業ブースに導くことができますが、常にそういった指導は不可能です。合同企業説明会で大切なことの一つは、学生に中小企業を知ってもらうことだと考えています。そのためにも、今以上の工夫が必要なのかなと思います。

**山野**　定型の会社資料以外に、手掛けた工事の写真があると学生にはウケがよいですよね。中小企業だからこそのインパクトだと、たとえば社長が乗っている車を見せる。「将来、こういう車に乗れる」というと、専門学校生だと非常に興味を示すと思います。

最近はパソコンを持ち込まれて、動画を流している企業も多いですね。その内容が、企業規模に関係なく**社員を大切にしているぞというものや、企業の個性・特色を表わしたもの**④だと効果的なのではないかと思っています。

**POINT 1　合同企業説明会**

日本工学院八王子専門学校では、4月に全学科対象で3日間開催。毎年学生を採用いただいている企業が、1日130～140社ブース出展。その後は順次、業界ごとに定期的に行っている。

**POINT 2　就職戦線は過渡期に**

大学側の理想的な就職活動時期は、3年生の2～3月の春休みあたり。4年生になって早々に就職先が決まると、就職後に役立つ実地に近い学びを組み込んでいく。
専門学校の場合は、2年生の4月から秋くらいまでの間が、就職活動の決戦期となる。

**POINT 3　インターンシップ**

現場ではトランジットを使った測量、設計事務所では与えられた課題を期間内で取り組みプレゼンテーション、また実際の模型製作を手伝うなどの体験をしている。

**POINT 4　社員を大切にしている…**

たとえば、毎年会社で行っているバーベキュー大会や、社員旅行の様子。また、「うちの現場のトイレはこんなにきれいだよ」というような、会社が社員のために力を注いでいるPRポイントなど。

## 専門学校、大学と企業は どのように関係性を築けばいい？

**山野**　まずはキャリアサポートセンターや就職部にお問い合わせをいただければいいですよね。

**栗﨑**　そうですね。企業の採用担当の方から就職部に連絡をいただけば、各学部学科の就職指導担当の教員につながります。我々も基本は接触や訪問を断ることはありません。最初は「学校で行っている合同企業説明会に参加したい」などのお問い合わせでも大丈夫です。関係を築くことができたら、「中途採用で誰かいませんか？」などのご要望にも、タイミングが合えばお応えできるかもしれません。

**山野**　そうですね。これまでお付き合いのある企業の方はもちろん、今までにお付き合いのない企業の方も、ぜひ学校にお越しください。「いきなり訪問しても相手にしてもらえない」などとお考えにならず、情報や意見を交換しながら少しずつ関係を築いていきたいと思っています。

**栗﨑**　訪問初年度に期待通りの結果がでなくても、2年目、3年目くらいのスパンで考えていただけたらと思います。今、建設業はさまざまな改革が推進され、古い体質の悪い部分が徐々に改善されてきていると感じています。大学生、専門学校生はもちろん、高校生にも「建設業はいい業界だぞ」とさらに自信をもって伝えられる業界になって欲しいです。また、ものづくりの楽しさや、建物が完成した時の感激、携わった建物が利用されているところを見る喜び等業界の“いいところ”を、もっとアピールできるようになればいいなと思います。

日本工学院八王子専門学校
「キャリアサポートブック」で学生たちに紹介されている

## 情報収集の10ルート

### 01 キャリアサポートセンター
求人票や求人企業の会社案内、就職情報誌などが揃う企業情報の宝庫。企業の人事担当者と面識がある職員の丁寧な対応が強み

### 02 就職情報サイト
企業情報が入手できるだけでなく、学生同士の情報交換や専門家からのアドバイスなど、就職活動のノウハウ収集のためにも活用

### 03 企業のホームページ・会社(入社)案内
企業概要、事業内容、企業理念、採用情報など幅広く情報収集。会社案内などの資料請求エントリーフォームも活用

### 04 新聞
企業の客観的な情報を得る媒体として、特に経済面に目を通すように指導。キャリアサポートセンターに常備している

### 05 雑誌
就職情報誌だけではなく、産業界全般の情報を知るために、ビジネス誌を読むことを推奨

### 06 書籍
キャリアサポートセンターには、就職活動関連やビジネス書関連など、業界別に書籍を常備

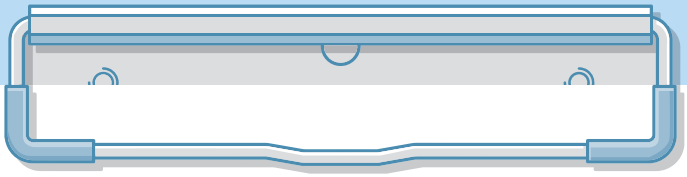
### 07 就職四季報
毎年の採用人数や福利厚生制度などの社内制度の比較や、平均勤続年数、経常利益の推移の他社比較などを見るよう指導

### 08 OB・OG訪問
会社のいい面はもちろん、悪い面、仕事のやりがいなどリアルな声を聞くことができるチャンスとして活用している

### 09 インターンシップ
2年制専門学校での実施は難しいが、仕事の内容だけではなく、「社風」「雰囲気」を知る貴重な機会として活用を推進している

### 10 口コミ
口コミを参考にする場合は、単なるうわさに振り回されないよう、複数の人からの情報に触れるように指導

重要！



＼学生たちはここを見ている！／

# “いい企業”の見極めポイント

イマドキの専門学校生や大学生が働きたいと思うのは、どのような企業なのでしょうか。
企業選びの指針となる、“いい企業探し” のチェックポイントをまとめてみました！

## 1 専門学校生＆大学生の視点

## 仕事観

- やりたい仕事ができそうだ
- 働くことで力がつきそうだ
- 希望する勤務地で働ける

## 2 専門学校生＆大学生の視点

## 労働条件

- 給与・賞与水準は適正である
- 勤務時間、休日・休暇は適正である
- 残業時間は適正である
- 社会保険にはすべて加入している
- 福利厚生制度は整っている

## 3 専門学校生＆大学生の視点

## 企業の魅力

- 経営者のビジョンが明確
- 企業理念など、会社の「価値観」に共感できる
- 社会貢献度が高い
- 技術や強みがある
- 先輩や若手社員がイキイキ
- 企業の成長性がある
- 社内教育制度が充実している
- 社員が明るく元気がよい
- 社員の定着率がよい
- どんな評判があるのか
- 売り上げ規模・従業員数・拠点数などの企業規模
- 過去5年、経常利益がプラス

### POINT1

専門学校では、企業の規模や知名度だけで判断するのではなく、「企業の成長とともに自分も成長できるような企業」を判断基準の一つとして示しているようです。そういった視点では経営者のビジョンや、企業の成長性は大切なポイントだといえそうです。

### POINT2

山野先生と栗﨑先生の対談にもあったように、近年の専門学校生＆大学生は自分の生活に対する不安を抱えている傾向があります。そのため、給与をはじめ、労働条件、福利厚生が占めるウエイトは、以前より格段に大きくなっています。

フォーカス

# FOCUS 第59回

## 「わかった！」と自信を積み重ねて育みたいのは、わからないことにも臆せずチャレンジする心

吉野川の雄大な流れ、北には讃岐山脈、南には四国山脈を望む風光明媚な徳島県西部、美馬郡つるぎ町。この地で徳島県立つるぎ高等学校は、「人づくり、ものづくり、まちづくり」をコンセプトに、地域社会の発展に貢献する専門的な学びを実践。一方で徳島トップスポーツ校育成事業の認定を受けるなど、部活動も盛んです。部活動にまい進しつつ、資格取得も積極的な同校の指導方針とは？その極意を平田元美先生に伺いました。

徳島県立つるぎ高等学校
工業科 建設科 土木コース 教諭
**平田 元美** 先生

### 生徒のやる気の基本は、「簡単」「わかる」の積み重ね

昭和31年に開校した美馬商業高等学校を前進とする同校。昭和33年には工業科の併設、昭和42年には「貞光工業高等学校」と「美馬商業高等学校」の分離独立などの歴史を刻んできました。平成25年には少子化の影響により両校は再編統合。平成26年度、徳島県では初めてとなる、工業科と商業科を併設した「つるぎ高等学校」として開校されました。

### ■ 生徒が授業に興味をもつよう、どのような工夫をしていますか？

最初に教科書を渡すときに必ず、「これは高校生用の教科書なのだから、みんなに解けない問題はない」と伝えるようにしています。なかには、やる前から「構造計算は難しいから自分にはできない」と決めつけている生徒もいます。それでは前に進むことはできません。私はなにより、生徒が「簡単だった！」といえることが大切だと思っています。「自分はできる！」と思えることで、次のステップにいくことができるからです。まず、基礎や基本の徹底からはじめます。説明をしたら類似問題や演習問題を解き、「わかった」という気持ちを積み上げていくよう心掛けています。早く問題が解けた生徒には、困っている生徒に教えるよう促すのですが、生徒同士で教え合うと、「説明がわかりにくい！」など教わる側も容赦がありません。わかるように説明するためにはどうすればいいか、生徒は自分でしっかり考えています。誰かに何かを説明するのはとても難しいことです。しかし、考えて伝えることの積み重ねは、たとえば就職試験の際など人前で自分自身を説明しなければならない局面で役に立つと思っています。教え合いの様子を見ていると、生徒たちの変化や成長を目の当たりにすることが多く、とてもうれしく感じますね。

地域社会の発展に貢献する専門高校。工業と商業を併設するメリットを活かしながら、オンリーワン教育を創造することを目指している

### ■ 建設業への興味喚起は、どのようにされていますか？

授業では動画を活用しています。たとえば教科書で見るだけではわかりにくい土質試験。インターネットにアップされている動画を見ると、機材のサイズ感もつかみやすい。そのほか測量のコツなども、動画から学ぶことは多いです。動画は授業の前に検索エンジンなどを利用してコツコツ探しているので、生徒たちに参考になる動画がパッケージになった資料集などがあるといいなと思います。

６月に行われた「ものづくり大会 徳島県大会」では、今年初めて念願の優勝！部活動と掛け持ちしながらも、授業を活用しながらチームワークと技術を磨いた

建設業協会の方に主催していただいている現場見学会も、生徒たちが建設業に興味を抱く絶好のチャンスです。トンネル工事や山の法面工事など、県内の建築と土木の現場を４つほどバスツアーで巡っています。学校では小さな重機しか見ることはできませんが、実際の現場で大きな重機をみて「これを動かしたい！」という生

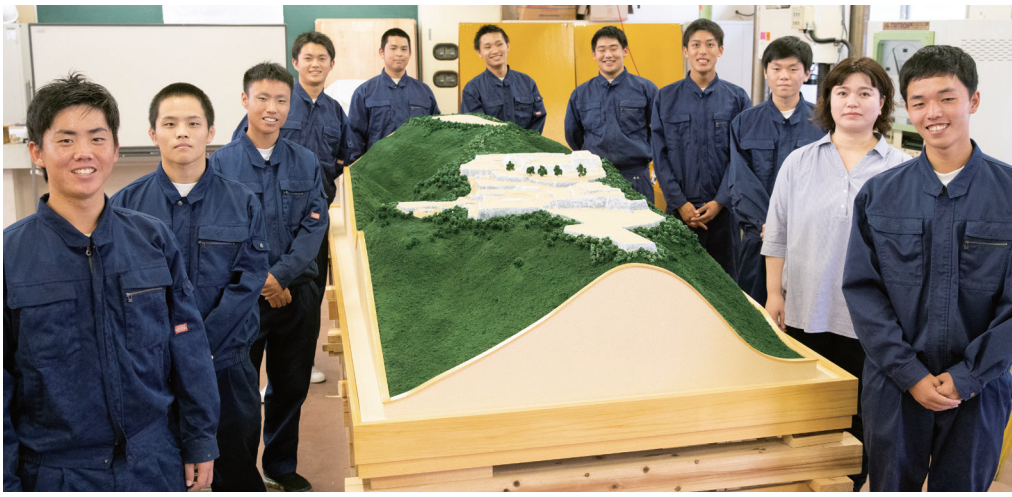
徒もいます。また、現場で働く先輩方に教科書には載っていないことや、自分たちの仕事が地域の方に感謝された話などを伺い、建設業で働くことに対し気持ちが大きく動く生徒も少なくありません。

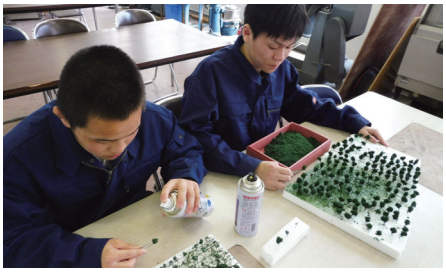
## 有事の最前線で活躍する土木 自身の想いを生徒に託して

### ■ 生徒たちには、土木の魅力をどのように伝えていますか？

社会貢献性が高い仕事だと伝えています。災害が起きたときにも、最前線で動かなければならないのは、建設業に従事している人たちです。たとえば自衛隊が被災地に入るにしても、道路の整備をきちんとしていなければ、自衛隊も動くに動けません。折に触れ、有事の最前線で地域の方の生活を守る、大切な仕事だということを伝えています。

また、私たちが生活している四国には３つの大きな橋があります。特に明石海峡大橋は、世界最長の吊り橋です。この建設に欠かせない土木こそ、世界に誇る技術をもった分野なのだということをいつも話しています。私自身が土木の社会貢献性に魅力を感じ、大学では社会基盤の勉強をしてきました。生徒にも土木の仕事の社会に対する意義、重要性を伝えていきたいです。授業や現場見学会を通し、「社会に役立つ、大きなプロジェクトに参加したい」と言う生徒が出てきています。大きな夢をもち勉学に励む生徒の姿を見るのは、うれしいことです。





企業の協力の元、洲本城址（兵庫県洲本市）をドローンで測量し図面を作成。土木コースで山城模型を製作。洲本城の歴史などを地元の方にプレゼンテーションする予定

学校内で老朽化していた土壁。新たに擁壁製作をするため、ものづくりマイスター制度を活用し、型枠工事の実技指導を受けた

### ■ 先生が目指す教育の在り方とは？

実業校ですので、ほとんどの生徒が卒業後は就職します。つまり、社会に出る前の最後の学生生活を送る場所です。社会人になって振り返ったとき、高校での思い出がメインになるということを常に意識しています。そのため学業も大事なのですが、「学校が楽しかった」と思える場になるような環境づくりを第一に心掛けています。また、生徒たちが高校を巣立ち、建設業界へ身を置くことになったとき、新しい技術が導入され続けることでしょう。わからないこともたくさんあるかもしれない。そんなときでも臆せずにチャレンジできる、「やってみたら簡単だったよ！」といえる力を身につけてほしいと思います。

## 建設業界で活躍する方々へ 先生からひとこと！

徳島県では、南海トラフ地震が来ると言われています。いずれ大きな災害が起こるかもしれないという状況下で、建設業界の支えは本当に大切なものだと思います。防災はもちろん、被災後のケア等、さまざまな技術を駆使して最前線で活躍できる人材育成は、私たち教育現場でも課題だと感じています。ひとりでも多くの生徒に高い志をもって建設業に進んでもらいたい。そのためにもOBの方に学校に来ていただき、現場の話を生徒たちに聞かせていただく機会を設けていただきたいと思います。

徳島県立つるぎ高等学校　〒779−4101 徳島県美馬郡つるぎ町貞光字馬出63−2　WEB http://tsurugi-hs.tokushima-ec.ed.jp/

100年に一度の大変革に直面

# 世界的な自動車販売の不振をどう見るか

みずほ総合研究所 チーフエコノミスト　長谷川 克之

**世界経済は製造業を中心に減速しつつある。減速の背景として、米中の通商摩擦、中国経済の減速だけでなく、世界的な自動車販売の不振があることも見過ごすことができない。それぞれの要因には相互に連関している側面もあるが、自動車販売の行方は世界経済の先行きを見通す上でも重要となっている。今回は、大きな変革に直面している自動車産業の動向をマクロ的な視点から考察したい。**

## 世界経済減速の2割を占める自動車生産減少

自動車販売が世界的に不振を余儀なくされている。世界の自動車生産額は2018年に、金融危機時の09年以来の前年割れとなった（図表）。世界経済の成長率は減速しつつあるが、自動車生産の減少による影響は小さくない。

IMF（国際通貨基金）によれば、18年の世界全体の成長率は3.6%と、前年の3.8%から0.2%ポイントの減速となったが、減速分の20%が自動車生産の減少によるものだという。自動車産業は世界の総生産の約6%、世界の輸出額の約8%を占める一大産業であり、その影響は無視できない。また、当然、自動車の生産に当たってはさまざまな資源が費消され、商品価格への影響も考えられる。自動車産業における鉄鋼やアルミニウムの費消量は、全産業の中でも第二の量に及ぶとされる。

## 自動車販売不振の背景

自動車販売不振の背景には、各国に固有の事情と共通する事情がある。例えば、世界全体の3割弱を占める最大の自動車市場である中国では、15年から16年にかけて実施された低排気量車向けの自動車減税策が、17年以降段階的に縮小、18年に打ち切られたことの影響が大きいと考えられる。中国の18年の販売台数は28年振りに前年割れとなった。減税策終了に伴う反動減に加えて、大都市で常態化・深刻化している渋滞問題と、その対応策としてのナンバープレートの発行規制も自動車販売の抑制要因となっている。第二の新興国市場であるインドでは、金融面での制約も販売不振をもたらしている。昨年末に地場の大手ノンバンクが破綻したことを契機として、オートローンの審査が厳格化していることが響いているようだ。

多くの国に共通する要因としては、環境規制の厳格化の影響がある。例えば、ドイツでは18年9月に新たな$CO_2$排出量測定方法であるWLTP（乗用車などの国際調和排出ガス・燃費試験法）が導入されたことが響いている。中国では19年7月に新排ガス規制が一部の省で先行的に導入されており、規制に対応する車種のラインアップが遅れたことも販売不振をもたらした。インドでは20年に新たに導入される新排ガス規制を控えて、規制非適合車種の価格下落懸念が、消費者の買い控えを招いているとされる。

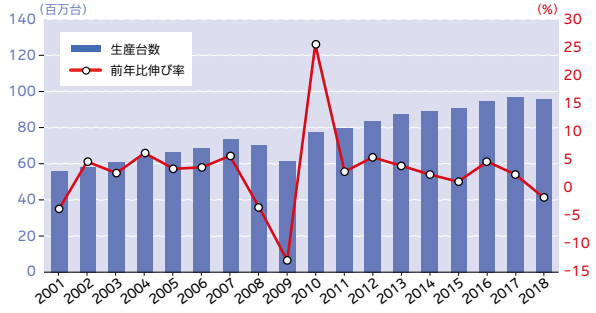
こうした諸要因により、世界の自動車販売は19年通年で前年割れになると見込まれる。20年にかけての底入れが期待されるも、販売回復は緩やかなものに留まる可能性が高い。なお、日本国内の自動車販売は、19年は10月の消費増税前の駆け込み需要が、前回の増税前と比べれば軽微ではあるが、多少なりともあったため前年比で微増となり、その反動から20年は前年割れになると予想される。

## CASE時代の自動車販売

自動車産業はデジタライゼーションの進展による構造変化にさらされている最たる例であり、いわゆる「CASE（Connected（つながる車）、Autonomous（自動運転）、Shared（カーシェアリング）、Electric（電気自動車））」によって、100年に一度の大変革に直面している。

CASEは自動車産業にとって新たな成長フロンティアではあるが、販売の増大をもたらすかは疑わしい。近年の自動車販売の不振は一時的なものではなく、来るCASE時代の序章である可能性もある。先進国の自動車市場は既に成熟しており、中長期的にはカーシェアリングという新たな自動車の利用形態が普及してこよう。新興国では自動車普及率が低い国も多く、今後も自動車市場の拡大が期待できるが、渋滞問題が深刻化する中で、排ガス規制の強化が続こう。電気自動車化が車種のラインアップ制約や販売価格の上昇をもたらす可能性もある。CASEが中長期的に、世界の自動車販売、ひいては世界経済に対する下押しとして作用する可能性には留意が必要だ。

**図表　世界の自動車生産**




（資料）IMFより、みずほ総合研究所作成

2018年度決算

# 好業績背景に投資と新領域開拓

日経コンストラクション編集長　浅野 祐一

**近年、復興事業や五輪関連事業などを追い風として、建設会社の業績が好調を維持している。少し前までは、「2020年の東京五輪以降が不安」という声が目立ったものの、25年の万博開催をはじめ、急速な市場悪化は避けられそうだという見通しも広がっている。**

日経コンストラクションが主な建設会社に対して、2018年度決算（18年4月～19年3月に期末を迎えたもの）の状況をアンケート調査したところ、土木受注高の上位25社のうち、前期比で土木売上高が増収となった企業は17社と約7割に達した。

さらに、土木分野の完成工事総利益率を見てみると、最大手の4社は20%弱の水準を維持。全体売上高が500億円超、かつ土木売上高が80億円超の準大手・中堅建設会社43社でも10%の水準を超え、伸び続けている状況にある。発注量が多いために、不採算工事を受注しないような選別が適切にできているのだ。

ただし、利益率の右肩上がりを期待するのは難しいだろう。足元でも資材価格の高騰や人手不足による人件費の上昇などが危惧されている状況にある。急激に発注量が減少しないにしても、復興事業や五輪関連施設の整備が進めば、現状よりは発注量が減る可能性は低くない。実際に、日経コンストラクションのアンケートでは、19年度以降の業績に与えるリスクとして、労務単価の上昇を挙げる会社が54%と過半に達した。

## IoT機器の導入企業は半数に 清水は作業船に500億円投資

将来のリスクを見通して、業績が好調なうちに建設市場としてこれから期待できる分野への進出や投資が活発になっている。その一例が維持・補修事業への進出だ。

中央自動車道の笹子トンネルの天井板崩落事故以降、インフラの老朽化対策の必要性が強く認知され、インフラの補修・更新事業が増えてきている。なかでも事業化が早く進んでいるのが高速道路だ。東日本、中日本、西日本の高速道路会社3社だけでも、15年間で3兆円の投資を行う予定にしている。

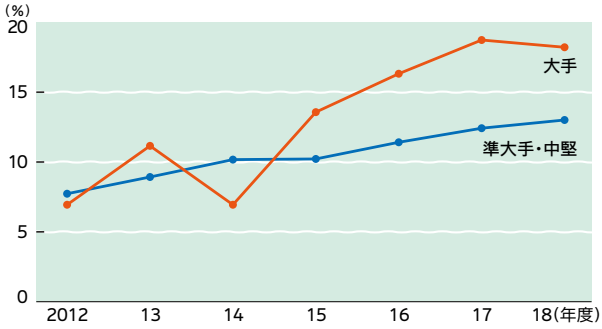
既に、橋の床版取り換え工事などが数多く発注され始めている。発注される工事規模も大きくなっており、建設会社にとっては、魅力のある市場だ。

研究開発への投資も活発になっている。最大手4社が投じる研究開発費は売上高の1%の水準にまで迫っている。全体売上高が2000億円超、かつ土木売上高500億円超で、研究開発費を公表している9社（最大手4社を除く）も平均で売上高の0.5%を投じている。いずれも近年は増加傾向にある。なかでも生産性向上に寄与する取り組みに力を入れる建設会社が多い。

アンケートに回答した建設会社129社に、人手不足解消のために取り組んでいる方策を尋ねたところ、BIM/CIMの実践とIoT機器の導入、建機の自動化・無人化施工といった分野が半数程度に及んでいた。国土交通省のi-Constructionの施策を受けた改革が浸透してきている様子が浮かび上がる。

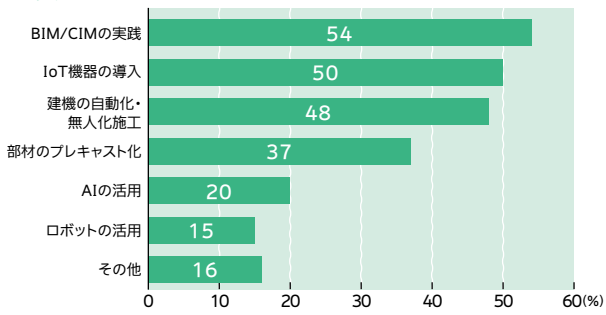
成長分野への投資という点では、再生可能エネルギーによる発電事業に関連した投資が目立つ。清水建設は洋上風力発電施設の施工に使う作業船であるSEP船の建造に約500億円を投じると発表。大林組も東亜建設工業と組んでSEP船を建造する。奥村組はバイオマス発電事業に参画すると発表している。

**図表1**




建設会社の企業規模別の土木の完成工事総利益率の推移。大手は最大手4社。準大手・中堅とは、アンケートに回答した土木売上高80億円超、かつ全体売上高500億円超の43社。（資料:日経コンストラクション）

**図表2**




人手不足のために取り組んでいる生産性向上策。日経コンストラクションの決算調査アンケートに応じた129社の回答を基に作成。複数回答。（資料:日経コンストラクション）

# 働き方改革関連法案に対応!!
# 建設業の労務管理

第2回

アスミル社会保険労務士事務所代表
特定社会保険労務士

櫻井 好美

民間企業に7年勤務後、
2002年櫻井社会保険労務士事務所（現・アスミル社会保険労務士事務所）を設立。

【主なコンサルティング・セミナー内容】
就業規則・労働環境整備、人事評価制度コンサルティング、賃金制度コンサルティング、退職金コンサルティング、働き方改革セミナー、管理職向け労務管理セミナー、建設業むけ社会保険セミナー、介護セミナー、WLBセミナー、女性の働き方セミナー、学生むけ働く前に知っておいてほしいこと　等


SUBJECT ► 建設業における労働時間の考え方

## 法定労働時間とは?

労働基準法では、休憩時間を除いて1日に8時間、1週間に40時間を超えて労働させてはいけないということになっています。

法定労働時間を超えて仕事をするのであれば、下記の2点をクリアしなくてはいけません。

❶ 36協定の締結および届出

❷ 割増賃金（残業代）の支払い

### 法定労働時間と所定労働時間

法定労働時間とは法律で決まった労働時間、所定労働時間とは会社ごとに決めている労働時間のことをいいます。法定労働時間を超えることはNGですが、法定労働時間以内の基準はOKです。1日7時間労働や1日7時間30分というのは法定労働時間以内なのでOKです（左下表）。

## 労働時間とは?

「使用者の指揮命令下」にある時間のことをいいます（右下表）。

### 移動時間の考え方

現場へ向かうときは、会社へ集まり、単独もしくは複数で車両に乗って現場へ向かうケースが多いと思います。ただ、この移動が、会社の指揮命令下であれば労働時間とカウントします。車の中でその日の段取り等の打合せをしたり、必ず乗る車両が決められているのであれば使用者の指揮命令下と考えられるため、労働時間と扱います。ただ、会社に集まりはするが、誰が車両を運転するのか？集合時間等も移動する人達で任意に決めて移動するのであれば、「通勤」としての意味合いが強く、これは使用者の指揮命令下にあたらない、つまり労働時間ではなく、単に通勤時間と考えます。

## 36協定とは?

法定労働時間または法定休日を超えて労働させるときには、労働者の過半数で組織する労働組合がある場合はその労働組合、労働組合がない場合には労働者の過半数を代表する者との労使協定（36協定）を締結し、労働基準監督署へ届出をしなくてはなりません。36協定とは、1ケ月、1年間での残業時間の限度時間を決めておくものです。たとえ労働者1名であっても締結しなくてはいけません（右頁例）。

### 法定労働時間と所定労働時間

| | |
|---|---|
| 法定労働時間 | 1日8時間　1週40時間 |
| 法定休日 | 少なくとも週1日、もしくは4週を通じて4日 |
| 休憩 | 労働時間が6時間を超える場合は45分以上<br>労働時間が8時間を超える場合は1時間以上<br>※休憩は必ず仕事の途中で与えることになっています |

### 労働時間とは

| | |
|---|---|
| 労働時間 | ・始業前の準備時間<br>・朝礼時間<br>・終業後の片付け<br>・手待ち時間等 |
| 労働時間ではない | ・休憩時間<br>・通勤時間<br>・任意の研修等 |

## 建設業における労働時間の問題点

例えば、始業８時、終業17時、休憩が12時～13時という会社があったとします。この会社の所定労働時間（会社で定めた労働時間を所定労働時間といいます。）は１日８時間です。

下図のような働き方をする場合は、必ず36協定の締結・届出と残業代の支払いが必要になります（下図）。

## 労働時間のポイント

建設業においては土曜日に現場が動いており、時間外労働が当たり前になっている可能性があります。まずは、会社の所定労働時間が法定労働時間の中でおさまっているのかを確認をしてみてください。また、朝礼が始業時間前に行われていたり、現場から戻ったあとの片付けや、日報作成等をさせているのであれば、これは労働時間とカウントします。まずはメリハリのある時間管理をしていくことが必要です。

## 法定労働時間を超える労働時間

| | |
|---|---|
| 月 | ８時～17時 |
| 火 | |
| 水 | |
| 木 | |
| 金 | |
| 土 | ８時～17時 |
| 日 | 休日 |

１日８時間 × ５日

月～金曜日ですでに **40時間**

土曜日は法定労働時間を超える労働時間です。

## （例） 36協定（緑文字部分が記入部分）

様式第9号（第17条関係）

### 時間外労働、休日労働に関する協定届

| 事業の種類 | 事業の名称 | 事業の所在地（電話番号） |
|---|---|---|
| 外装工事 | □□工業 | □□県□□市□□123-45　（123-4567-8910） |

| | 時間外労働をさせる必要のある具体的理由 | 業務の種類 | 労働者数（満18歳以上の者） | 所定労働時間 | 延長することができる時間 1日 | 延長することができる時間 1日を超える一定の期間（起算日） 1か月（毎月1日） | 延長することができる時間 1日を超える一定の期間（起算日） 1年（8月1日） | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①下記②のいずれにも該当しない労働者 | 納期切迫、臨時受注の為 | 現場作業員 | 7人 | 1日7時間30分 | 6時間 | 80時間 | 840時間 | 令和00年00月00日から1年間 |
| ②1年単位の変形労働時間制により労働する労働者 | | | | | | | | |

承認 00.00.00

| 休日労働させる必要のある具体的理由 | 業務の種類 | 労働者数（満18歳以上の者） | 所定休日 | 労働させることができる休日並びに始業及び終業の時刻 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 納期切迫、臨時受注の為 | 現場作業員 | 7人 | 日曜日、その他会社が定める日 | 月4回　8:00～17:30 | 令和00年00月00日から1年間 |

協定成立年月日　令和 00年 00月 00日

協定の当事者である労働組合又は労働者の過半数を代表する者の　職名 現場作業員　氏名 □□□ □□□　印

協定の当事者（労働者の過半数を代表する者の場合）の選出方法（ 話し合いによる ）

令和 00年 00月 00日

使用者名 □□工業　職名氏名 □□ □□　印

□□□ 労働基準監督署長 殿

**記載心得**

1「業務の種類」の欄には、時間外労働又は休日労働させる必要のある業務を具体的に記入し、労働基準法第36条第1項ただし書の健康上特に有害な業務について協定をした場合には、当該業務を他の業務と区別して記入すること。

2「延長することができる時間」の欄の記入に当たっては、次のとおりとすること。

(1)「1日」の欄には、労働基準法第32条から第32条の5まで又は第40条の規定により労働させることができる最長の労働時間を超えて延長することができる時間であって、1日についての限度となる時間を記入すること。

(2)「1日を超える一定の期間（起算日）」の欄には、労働基準法第32条の５まで又は第40条の規定により労働させることができる最長の労働時間を超えて延長することができる時間であって、同法第36条第1項の協定で定められた1日を超え3箇月以内の期間及び1年間についての延長することができる時間の限度に関して、その上覧に当該協定で定められたすべての期間を記入し、当該期間の起算日を括弧書きし、その下欄に、当該期間に応じ、それぞれ当該期間についての限度となる時間を記入すること。

3 ②の欄は、労働基準法第32条の4の規定による労働時間により労働する労働者（対象期間が3箇月を超える変形労働時間制により労働する者に限る。）について記入すること。

4「労働させることができる休日並びに始業及び終業の時刻」の欄には、労働基準法第35条の規定による休日であって労働させることができる日並びに当該休日の労働の始業及び終業の時刻を記入すること。

5「期間」の欄には、時間外労働又は休日労働をさせることができる日の属する期間を記入すること。

KAWAII DOBOKU
かわいい土木
MIKAMI MIE
第27回

# 東京港発展のレガシー 貨物廃線の赤い橋

開国港として横浜港が先に発展したことから、近代港湾としての整備が遅れた東京港。戦後になってようやく本格的な国際港として歩み始めると、東京都は埠頭と鉄道駅をつなぐ貨物線の整備に力を入れた。物流面で高度成長を支えた臨港鉄道の遺構は、東京港発展のレガシーを伝えている。

## 東京都専用線 旧晴海鉄道橋
東京都江東区、中央区

Photo・Text：フリーライター 三上 美絵
大成建設広報部勤務を経てフリーライターとなる。「日経コンストラクション」（日経BP社）や土木学会誌などの建設系雑誌を中心に記事を執筆。広報研修講師、社内報コンペティション審査員。著書『土木の広報～『対話』でよみがえる誇りとやりがい～』（日経BP社刊、共著）

「立入禁止」の看板が掛かった柵の先に、運河を渡る線路が見える。コンクリートの桁橋の奥には、赤くさびた鉄のアーチ橋。対岸側には再び桁橋が続く。地元では「赤橋」と呼ばれる旧晴海鉄道橋だ。床版の砂利のすき間からたくましく伸びる雑草と、アーチ部のさび色のコントラストがかもし出す廃線感が味わい深い。

かつてはここに、晴海埠頭（ふとう）と越中島の貨物駅を結ぶ臨港鉄道、晴海線が通っていた。新聞巻取紙（ロール状の新聞用紙）、輸入小麦、大豆、セメント、雑貨などを貨物列車に載せ、越中島駅との間を行き来して海路と鉄路をつないでいたのだ。

東京都港湾局が港湾施設の一環として管理するこうした専用線は、他にもたくさんあった。まず1953年に越中島駅と豊洲石炭埠頭を結ぶ延長約2.6kmの深川線が開通。この路線が分岐して57年に晴海線、59年に豊洲物揚場（ものあげば）線がそれぞれ開通した。

都の専用線を分岐するかたちで、企業の引き込み線も敷設された。例えば、東京ガスは豊洲地区に工場を建て、船で運ばれてきた石炭から都市ガスを生成。副産物であるコークスを引き込み線で出荷していた。

また、東京湾を挟んだ対岸でも60年代にかけて、汐留駅と芝浦埠頭を結ぶ芝浦線、日の出埠頭を結ぶ日の出線などが整備された。最盛期の60年代後半には、総延長24km、年間貨物量170万トンに及んだという。

▲東京メトロ東西線木場駅から三ツ目通りを南へ10分ほど歩くと、汐見運河の手前左側に元深川線の線路が100mほど続いているのが見える。

### 明治時代の築港計画が60年後に実現

臨港鉄道の発達は、東京港の発展の歴史を物語る。

東京の築港論が初めて登場したのは、1879年（明治12年）のことだった。思想家の田口卯吉が、自由貿易による商業立国を掲げ、品川沖に近代港を開いて国内外の海運基地とすることを提唱したのだ。当時の東京府知事・松田道之は、田口の案に賛同し、築港の検討に入ったものの、その矢先に急逝。計画は白紙に戻った。

その後も東京築港は、浮上するたびに頓挫する。「東京に国際港ができれば横浜港が廃れる」と危惧した外国の生糸商人や、首都への外国船の入港を嫌う軍事関係者たちの根強い反対があったからだ。

この状況が一転するきっかけとなったのが、1923年（大正12年）の関東大震災だ。陸上交通は壊滅し、救援物資を船で運ぼうにも、大型船舶の接岸できる埠頭がなく、荷役は困難を極めた。これが教訓となり、日の出、芝浦、竹芝の各埠頭が整備された。

ただし、就航を認められたのは国内船のみ。外国貿易の貨物は横浜港から艀（はしけ）で東京港へ運ばざるを得なかった。ようやく東京が開港したのは41年（昭和16年）。日本統治下の台湾、満州、関東州の就航船のみが対象とはいえ、東京港を国際貿易拠点にするという明治以来

▲立入禁止の柵の先に、線路が続く。旧晴海鉄道橋は現在、遊歩道として整備するための設計が進んでいる。

の計画が、60年越しに実現することになった。

ところが、半年後に太平洋戦争に突入すると東京港は軍専用となり、終戦後はGHQによる接収を受ける。東京港が本格的な国際港としての歩みを踏み出したのは、返還が始まった53年以降のことだ。臨港鉄道として東京都専用線が敷設されたのも、まさにこの時期だった。

## 高度経済成長を支えた臨港鉄道の今

それからおよそ30年。陸上貨物輸送の主役は鉄道からトラックへと移り変わり、役割を終えた東京都専用線は89年に全線廃止となった。貨物線とはいえ、敷設からわずか30年間という供用期間は、あまりにも短く、はかない。一方で、その短さこそが、日本が敗戦から復興し、高度経済成長を達成するまでの驚異的なスピードを表しているのだ。

廃線からさらに30年がたった今、跡地の多くは再開発され、マンションやオフィスビルに姿を変えた。それでもなお、旧晴海鉄道橋をはじめ、遺構が残っている場所も少なくない。高層マンションの隣地に廃線の線路が100m以上まっすぐ延びていたり、運河の中に鉄道橋のなごりの橋脚が残っていたり。現地を訪れ、ウィキペディアにも

▲両岸から延びるコンクリート桁橋にアーチ橋がサンドイッチされている。アーチ橋は、桁とともに太いアーチ部材が「曲げ」に対する抵抗を受け持つ「ローゼ桁」という形式だ。

載っている往時の路線図を頼りに痕跡をたどっていくと、異様に縦長の駐車場が線路跡地だったことに気づいたりもする。

目前に迫った東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、ベイエリアに多くの会場が設けられる。これに合わせて都は海上公園の整備を進めており、その一環として旧晴海鉄道橋も保存改修され、遊歩道として生まれ変わる予定だ。

橋からは、晴海や豊洲の高層ビル群がよく見えるはず。その同じ場所に、かつては倉庫や工場が立ち並び、埠頭には大型船舶が停泊し、荷物を満載した貨物列車が走っていた。明治維新から関東大震災、太平洋戦争、高度成長を経て東京が、日本がどう変わってきたか。橋を渡りながら、そんなことに思いを馳せたい。

▲線路跡地の細長い駐車場の突端には、豊洲運河に架かっていた鉄道橋の橋台があった。フェンスの先の運河の中に、橋脚が2基残っている。

### アクセス access

旧晴海鉄道橋へは東京メトロ有楽町線・ゆりかもめ豊洲駅から徒歩8分、東京メトロ有楽町線・都営地下鉄大江戸線月島駅から徒歩10分

# しんこうTODAY

SHINKOU TODAY

## 長野県建設業協会「土木の日」イベントを開催

### 振興基金ブースも登場！
### 「建設業の紹介」や「建設キャリアアップシステム」をPR

（一社）長野県建設業協会と長野県建設部は、令和元年11月16日（土）に、長野駅コンコースにおいて、親子、学生など幅広い方を対象に、土木の大切さや建設産業をPRする「土木の日」イベントを開催しました。

イベントでは、建設産業の重要性についてわかりやすく説明したパネル展や、専門学校と連携したポスターコンテスト等の実施、また、オリジナル缶バッジ制作やミニショベルカーでのお菓子すくいなどの親子で楽しめる体験ブースも数多く登場し、多くの人で賑わいました。

長野駅コンコース前に登場した「土木の日」イベントブース。多くの人が足を止め、展示パネルに見入る方や、体験ブースで楽しむ親子連れで賑わうなど、大変盛況でした。

デザイン専門学生による土木の日ポスターコンテストが開催され、優秀作品の制作者には、長野県建設業協会の会長、青年部会長、女性部会長からそれぞれ表彰状が授与されました。

本財団も「建設業の紹介」や「建設キャリアアップシステム」をPRするブースを出展し、学生や親子連れの方には、若年者や子供向けのパンフレットを配布して建設の仕事やその役割についての説明を行い、主に建設業で働いている方に向けた「建設キャリアアップシステム」の展示では、システムの説明に熱心に聞き入る人の姿も見られました。また、就業履歴登録アプリケーション「建レコ」体験ブースでは、実際に建設キャリアアップカードをカードリーダーにかざして就業履歴が登録される模様が体験できるとあって、来場者の方々も興味津々といった様子でした。

## 「建女ひばり会」設立 活動スタート！

（一社）茨城県建設業協会では、担い手確保・育成及び女性技術者の活躍支援等を目的とし、令和元年９月に女性部会『建女ひばり会』を設立しました。

今般、令和元年12月3日（火）に第１回目の活動として、建女ひばり会会員や国土交通省・茨城県土木部の女性職員など計41名が参加し現場見学会、意見交換会（行方市内）が開催されましたので、その模様をご紹介します。

H30東関東国道354号跨道橋下部工事（株式会社新井組）の現場を見学。参加者からは「若い女性が現場代理人として活躍する姿に希望を感じる」など、多くの感想が聞かれました。

意見交換会では、現場で１番気をつけている点は何か？という質問に対し、「とにかくコミュニケーションをとり、男女が助け合える関係を築く事」など活発な意見が飛び交いました。

参加者からは「このような会が設立される日が来るなんて、数年前までは想像もできなかったこと。これからは行政も巻き込んでもっと積極的に活動をしていきたい」「女性がではなく、女性も働きやすい現場にしていくことが結果としてみんなが働きやすい環境になるのではないか」などの声が聞かれました。

**一般社団法人 茨城県建設業協会 女性部会「建女ひばり会」会長**
**柳瀬 香織氏（海老根建設株式会社）**

今回、「建女ひばり会」発足後、最初の取り組みとして現場見学会、意見交換会を実施しました。多くの会員に参加いただき、とても嬉しく思っています。当会では令和2年1月より協会12支部の幹事と協力し、これから入職する人から既に働いている人まで、それぞれに対応した幅広いロールモデルの作成を予定しています。建設業以外の方々にも現場で働く女性のことを知ってもらいたいですし、建設業で働く女性達には、同じ立場の人を知ることで心強くなるのではないかと思っています。また、昨今では、業界のイメージが良くなってきていますが、若い子が入職を希望しても親御さんが反対することがあります。そのイメージを払拭するためにも、当会では親御さんを巻き込んだ活動をしていきたいと思っています。

建設業しんこう
Dec.2019 / Jan.2020 No.514
令和2年1月10日発行
第44巻 第8号 通巻第514号
■編集・発行
一般財団法人 建設業振興基金
〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-2-12虎ノ門4丁目 MTビル2号館

# PROFESSIONAL

## 手掛けたのは豊洲市場や羽田空港 ずっと使われ続ける建物をつくる鉄筋工の誇り

登録鉄筋基幹技能者

株式会社守谷鉄筋

守谷（もりや） 研（けん）さん

1974年12月生まれ　東京都出身

鉄筋工はビルやマンション、道路や橋などのあらゆる建設現場で、欠かすことができない存在だ。コンクリートに覆われてしまい完成形の建築物・構造物でその姿を見ることはないが、鉄筋工の手により網目状に組み上げられた鉄筋が、安全・安心な建物の要となるからだ。設計図をもとに鉄筋を組むので、目指すべき“かたち”はひとつ。しかしその“組み方”は、鉄筋工が10人いれば10通りの方法がある。「十人十色だからこそ、『この人の作業は早かった』『これはきれいな作業だな』など学ぶことが多い。もっと上を目指したいという気持ちが、掻き立てられるのでしょうね。自分で組んだ鉄筋を眺めては、『次はもっと早く、きれいにできる！』と気持ちがはやります」と語る（株）守谷鉄筋の守谷研さん。

入職４年で初めて職長を務めたのは、小さな共同住宅の現場。元請からの図面をもとに自分で材料を発注するなど、それまでの下積み時代の責任とは比べものにならないが、不安はなかった。「やるしかない！という気持ちが何よりも勝っていました」。以来、少しでも大きな現場に入りたいという向上心を糧に、矢島鉄筋工業（株）の指導を仰ぎながら研鑽を積んだ。今では豊洲市場や羽田空港国際線ターミナルなど、誰もが知る建物に携わる機会も多い。「私が携わった高級ホテルのカフェに母が行き、『すごいホテルだね』と言ってくれた時はうれしかったですね。ずっと使われ続ける建物をつくるのは、鉄筋工の誇りだと思います。特に豊洲市場は世間の注目度が高いうえに、総勢1,500人の職人が集まる大規模な現場。鉄筋工事業者は５社入っていたのですが、一番早く、きれいに仕上げようといつも以上に力が入りました」と語る言葉に熱が帯びる。

12年前には登録鉄筋基幹技能者の資格を取得。指導者としての責任感を強く意識するようになった。「自分が培ったことを、部下にどう伝えるか。『やってみせ、言って聞かせて、ほめてやらねば人は動かじ』という山本五十六さんの言葉が私の教訓です。若い世代を指導することは自分自身も学ぶことが多く、日々勉強です」。現在は14人の従業員を束ねているが、ゆくゆくは50人規模の会社にするのが目標。「夢は、自社ビルをつくること！」と力強く宣言する。まず目標達成のために注力するのは、若手の育成。「若い世代の持つパワーや頭の回転の早さが、これからの建設業を担っていきます。そんな彼らに私たち世代の強みである技術や経験を伝え、後世に長く残る建造物を一緒につくりたい」と語る守谷さんの目には、建設業の明るい未来がうつっている。

**登録基幹技能者**　熟達した作業能力と豊富な知識と経験を有し効率的に作業を進めるマネジメント能力を備えた技能者です。現場では上級職長などとして活躍しています。